

報道各位

## 結核集団感染事例の発生について

市内において、結核（2類感染症）の集団発生（※参考1）がありましたので、北九州市感染症公表要領に基づき、お知らせいたします。

### 1 概要

- 令和元年11月21日（木）に市内の医療機関（門司区）において80代男性（患者A）が結核と診断され、北九州市保健所へ発生届出がありました。
- 患者Aに接触した可能性のある家族および高齢者施設職員・利用者計32名に対し、接触者健康診断（※参考2）を実施したところ、7月14日現在、3名（患者B～D）の発病と3名の感染が確認されました（※参考3）。
- 初発患者Aと発病者（患者C）の結核菌の遺伝子検査を実施し、7月9日に遺伝子型が一致していることが判明しました。
- 接触の状況により、「結核集団感染事例」に該当すると判断し、厚生労働省に報告しましたので、お知らせします。

### 2 発病者の状況（令和2年7月14日現在）

		性別	年代	届出日	治療状況等
1	患者A	男	80代	令和元年11月21日	令和元年12月11日に肺結核のため死亡
2	患者B	女	80代	令和2年4月9日	通院治療中
3	患者C	女	50代	令和2年3月19日	通院治療中
4	患者D	女	50代	令和2年3月19日	通院治療中

※患者B～Dは、患者Aの家族。

### 3 感染者の状況（発病者は含まず）

- (1) 高齢者施設X（小倉北区）の利用者1名（男性70代）
- (2) 高齢者施設X（小倉北区）の職員1名（男性70代）
- (3) 高齢者施設Y（門司区）の職員1名（女性40代）

### 4 行政対応

- ① 発病者および感染者に対しては、適切な診療を受けるよう指導。
- ② 接触者に対し、計画的に接触者健康診断（※参考2）を実施。
- ③ 市民および医療機関に対して今後も結核に関する啓発を行う。

### 5 市内での結核集団感染事例（令和2年7月14日現在）

平成14年	1件
平成15年	1件
平成16年～27年	0件
平成28年	1件
平成29年	0件
平成30年	1件
平成31年（令和元年）	2件
令和2年	1件（本件を含む）

## 6 結核患者の北九州市への届出状況（令和2年7月14日現在）

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年 (平成31年)	令和2年
発生届出数 (単位：人)	258	273	307	243	208	79

※集団発生事例を報告することにより、集団施設等での感染予防の徹底をお願いするものです。

- 患者及び家族等の個人情報については、プライバシー保護の観点から、提供資料の範囲内にさせていただきます。ご理解の上、特段のご配慮をお願いいたします。
- 本市においては、別添「結核について」のとおり市民の皆様にご感染防止を呼びかけています。報道各位におかれても、別添の内容の周知にご協力いただきますようお願いいたします。

【予防のポイント】 別添参照

### 【参考1】結核の集団発生の定義について

同一感染源が2家族以上にまたがり、20人以上に感染させた場合をいう（発病者1人を6人の感染者に相当するものとして感染者数を計算する）。

### 【参考2】接触者健診について

接触者健診は、患者との最終接触日から3ヵ月後に結核菌の感染有無を調べる血液検査（IGRA検査）や結核の発病を調べる胸部エックス線検査などを行う。

【感染症法に基づく結核の接触者健康診断の手引き（改訂第5版）】に準ずる】

### 【参考3】用語の定義について（感染と発病）

「感染」とは、吸い込んだ結核菌が肺に定着した状態をいう。結核菌が体内にあっても、特に悪い影響を与えていない状態で、人への感染性もない。

「発病」とは、結核菌が体内で増えて病気を引き起こした状態をいう。発病初期は、咳や痰の中に結核菌は出ないが、結核の進行に伴い、咳や痰の中に結核菌が排菌され、排菌量が増えると他の人にも感染させるようになる。

## 《結核について》

### ➤ 結核とは

結核は、結核菌という細菌が体の中に入ることによって起こる病気です。

結核菌に感染していても、多くの方は結核を発症しません。結核菌に感染した人のうち、結核を発症する人は約5～10%です。しかし、身体の抵抗力が落ちている人では、結核を発症するリスクが高くなります。

### ➤ 症状

せき、痰、発熱、体のだるさ、寝汗、胸の痛み、体重減少などが主な症状です。風邪の症状に似ていますが、風邪との違いは症状が数週間続き、治ったと思ったらまた繰り返すことです。ただし、高齢者の方は、症状が出にくい場合がありますので、全身状態の注意深い観察が重要です。重症化すると周りの人にうつしてしまう可能性もありますし、場合によっては死に至ることもあります。

また、肺以外の臓器が冒されることもあり、腎臓、リンパ節、骨、脳など身体のあらゆる部分に影響が及ぶことがあります。特に、小児では症状が現れにくく、全身に及ぶ重篤な結核につながりやすいため、注意が必要です。

### ➤ 感染経路

痰（たん）の中に結核菌が出るようになった結核患者がせきやくしゃみをする時、しぶきが飛び散ります。このしぶきに含まれる水分が蒸発すると結核菌が空中に浮遊するようになり、それを吸い込むことによって感染の機会が生じます。結核菌を吸い込んでも鼻やのど、気管支で結核菌が止まれば感染しません。感染は、菌が肺にたどり着き、そこで増殖してはじめて起こります。結核に感染しても必ず発病するわけではなく、通常は免疫力が結核菌の増殖を抑え込みます。増殖を抑えきれなくなると、結核になります。しかし、結核菌に感染して発病するのは10人に1人から2人程度といわれています。

### ➤ 予防のポイント

#### ● BCG ワクチンを接種する

BCG は発病率を抑え、重症化を防ぐためのワクチンです。

BCG 接種は、小児の結核性髄膜炎や粟粒結核の発病防止に有効であるといわれています。乳幼児は1歳までに接種を受けましょう。BCG 接種によって発病が予防でき、もし発病しても重症化しないとの報告があります。

#### ● 抵抗力をつけましょう

十分な睡眠、規則正しい生活、適度な運動、バランスのとれた食事等、健康的な生活習慣を身につけ、体調を整えていれば感染や発病を防ぐことができます。

#### ● 年に1回は、胸部エックス線検査を受けましょう

職場の定期健康診断や市が実施している結核・肺がん検診などを受けましょう。  
特に80歳以上の結核患者が多いため、自覚症状がなくても受診しましょう。

### ➤ 早期発見のために～長引く咳は赤信号～

せきや痰など上記の症状が2週間以上続くときは、内科（専門は呼吸器科）を受診し、胸部エックス線検査を受けましょう。せき、くしゃみが出だしたら、周囲にうつさないためにマスクを着用しましょう。咳エチケット用には、市販されている不織布（ふしょくふ）製マスクの使用が適しています。